

麻疹はじなひの辨

立春 鉄牛和尚宿

如此詠りて張るべし

神家の枯僧鉄牛和尚元來伴何某  
 として勇猛無双の武士なりしが故有て四頂黒衣にまゑと交諸國と修行をせし  
 折飛弾國の山中にかり思へば路と失ひ夜ふ入りしむと宿をもち  
 せり或大樹の洞ふ入りて打卧るるが丑満ともをちし頃一陣乃  
 魔風樹木と動じたるその物音に驚き覺らる此中より外  
 を見れば夜又の如き者二個濁るる聲音と出り是より日本の  
 諸國小渡り我れが麻疹の道と流布せんとまを居  
 たるも鉄牛極へ麻疹の惡神とせんをゆ  
 一棒と投て彼等に驚怖させんをゆ  
 うろの中より飛出り棘臂と延て二神と  
 か相み如意とあがてうちまを不麻疹神大  
 ひふをそと我れとてく手ぶめふまを何者とあせ  
 くともわくは見え鉄牛かしくと打笑ひ我れ天下  
 の活僧鉄牛より汝等とち殺してよの愁と拂  
 りんと思ふると呼つるまを二下ん深く  
 空れ命ふ助もつるまを  
 名と門口に張るる家必ら  
 びも入るべと誓言と立  
 けは鉄牛ややくはやく  
 けらちには是より鉄牛か  
 名と紙ふかして張るる家  
 ちり麻疹の病決  
 ちり入るあし  
 あしりかや

半俗外史記 四 四



一龍齋 北乃豊豆画

横山三 菊市板

